

特別支援学級の学びを活かす交流及び共同学習 ～主体的に取り組むことができる生活単元学習での「招く交流」を通して～

唐津市立北波多小学校・教諭・高添 紗恵子

【提案の要旨】障害の有無にかかわらず、ともに認め合い、つながりを感じることができる学習を目指した交流活動を行っている。

1 はじめに

(1) 概要

本校は、令和6年度より「UD（ユニバーサルデザイン）の視点を取り入れた学校づくり～すべての子どもと教師が安心して過ごし、学ぶことができる学校に～」を校内研究テーマとして取り組んでいる。子ども達が安心して過ごし、学ぶためには、「①自分の考えをもつ、②自分のよさがわかる、③友達のよさがわかる」ことにあとし、「授業づくり」、「環境づくり」、「人間関係づくり」を研究の柱としている。今年度はすべての教師が、すべての学級の様子を参観する期間を設け、それぞれの担任が取り組んでいるUDの視点を共有している。

(2) 児童の実態

本校には知的障害特別支援学級（以下ひまわり学級）が1クラス、自閉・情緒障害特別支援学級が2クラス、病弱特別支援学級が1クラスある。本校のひまわり学級の児童は、自分の意思をうまく説明することが難しく交流学級では友達に追従的な面が多く見られるのが現状だ。そのようなことから、児童が主体的に取り組むことができる生活単元学習を通して、特別支援学級在籍の児童も、交流学級在籍の児童も「共に学び合う仲間だ」と実感できるような雰囲気づくりをしていく。取組としては、特別支援学級の学習を交流学級の児童に紹介する「招く交流」に重点を置いている。特別支援学級の学習を交流学級の児童と一緒に行うことで、相互のつながりを大切に

て豊かな人間性を育むことを目的としている。

2 取組の実際

(1) 生活単元学習の充実

ひまわり学級では、週に5時間生活単元学習を行っている。高学年の児童が中心となり、担任と共に学習計画を立て、司会などの役割設定をすることで主体的に取り組むことができるようにしている。

①「キャンディーたわし屋さんになろう」

製作・販売活動の単元。交流学級の友達を招くために、招待状を書くことや（国語科との関連）、お金の計算の練習（算数科との関連）が必要だということに気が付いていく。また友達に喜ばれるお店にするための工夫を考えさせた。



（写真1）児童が作るキャンディーたわし

②「梅干しを作ろう」

梅シロップや、梅干しを作る単元。梅干し作りでは、書く活動や発表する活動（国語科との関連）をねらいとして、梅干しの作り方をスライドにまとめ、交流学級の児童に紹介している。友達に分かりやすく説明することに重点に置き、発表の練習をしている。



(写真2) 交流学級児童へ発表する児童

③「カルピスショップをひらこう」

「カルピスを作ろう」では、比や割合の学習（算数科との関連）をねらいとし、交流学級の児童を招きカルピスシャーベットのふるまっ



(写真3) カルピスの作り方を説明する児童

(2) 教員間の情報交換と連携

一貫性・継続性のある支援体制を構築するために、全職員で連携し支援できるようにしている。

①「レベルシート」の作成

本校では、特別支援的な配慮が必要な児童及び生徒指導的な関わりが必要な児童、不登校の児童など特別な教育的ニーズがある児童をまとめている。



「レベルシート」をもとに

②子ども支援会議

週に1回、全職員で児童の情報を共有する時間を設けている。ここでは、児童の良い面も指導が必要な面も挙げ、情報を共有している。

③子どもサポート委員会

月に1回、特支Coが各担任に児童の困り感を聞き取り、管理職、教育相談Co、特支担任が話し合い、支援が必要な児童を関係機関につなげるようにしている。

3 成果と課題

(1) 充実した生活単元学習を通して

ひまわり学級の児童の変容として、交流学級の友達をひまわり学級に招待するというめあてをもたせることで、常に相手（交流学級の友達）を意識した学習につながるようになった。交流学級の友達が交流を楽しみにできるような看板を作ったり、言葉の練習を何度もしたりすることができた。交流学級の児童の変容としては、ひまわり学級の児童がいきいきと活動する様子を見て、それぞれの児童の特性についての理解を深めることができた。

6年1組	6年1組
私は、6年1組の教室以外でも、	私は、6年1組の教室以外でも、
うめぼしづくりに、ちゅうせんしたり、勉強	うめぼしづくりに、ちゅうせんしたり、勉強
をやるは、いる、ということがわかって	をやるは、いる、ということがわかって
うれしかったです。が、私たちが	うれしかったです。が、私たちが
のために、おなまを、つくり発表し	のために、おなまを、つくり発表し
たりして、くれたことが、でも、うれしが	たりして、くれたことが、でも、うれしが
たです。クラスのなかも、ふかま、た	たです。クラスのなかも、ふかま、た
まがします。ありがとうございます。	まがします。ありがとうございます。
	私は、6年1組の教室以外でも、
	うめぼしづくりに、ちゅうせんしたり、勉強
	をやるは、いる、ということがわかって
	うれしかったです。が、私たちが
	のために、おなまを、つくり発表し
	たりして、くれたことが、でも、うれしが
	たです。クラスのなかも、ふかま、た
	まがします。ありがとうございます。

(写真4) 「うめぼしを作ろう」交流学級児童の感想

課題として、ひまわり学級へ「招く活動」の際は友達とのコミュニケーションの積極性は増えてきたが、交流学級での活動では自信をもってコミュニケーションを取るというところまでは至っていないので、さらにひまわり学級での学びを交流学級に活かしていく必要がある。

(2) 教員間の情報交換と連携を通して

本校は日常的に職員間で児童の情報交換をしやすい雰囲気がある。校内研究においてUDを中心に据えた取り組みをし、全ての学級の参観があることで、交流学級の児童へ、支援学級で行っている活動を話題にしやすいというメリットがある。

また、当該児童への理解が深まり、交流学級で児童が活躍できる場を設定しやすくなった。今後も教員の経験や年代を越えて研修を深め、児童一人一人が大切にされる学級経営が必要であるとする。